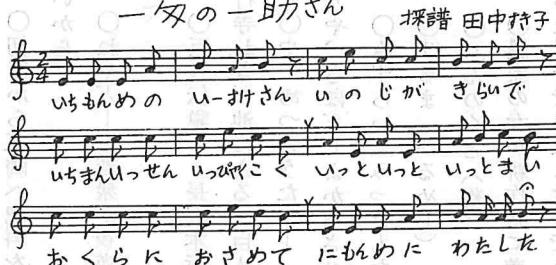


# 一匁の一助さん

赤橋尙太郎

## 一匁の一助さん

採譜 田中桔子



にもどるようである。

○一匁の一助さん、一の字がきらいで、一万一千一百石、一斗一斗一斗米、お倉におさめて二匁にわたした。

○二匁の二助さん、二の字がきらいで、二万二千二百石、二斗二斗二斗米、お倉におさめて三匁にわたした。

○三匁の三助さん、三の字がきらいで、三万三千三百石、三斗三斗三斗米、お倉におさめて四匁にわたした。

○略（四匁より九匁まで同じやり方）

○十匁の十助さん、十の字がきらいで、十万十万千百石、十斗十斗十斗米、お倉におさめて一匁にわたした。  
ここに示す曲は坂本の田中すき先生の採譜で、坂本辺の子供がうたっている節まわしであるという。私が聞き覚えているのと部分的に少異はあるが大体同じである。市音楽指導員の鯨井孝一先生が二部合唱にこれを編曲したのを坂本小学校児童がうたったのをきいたが面白い試だと思った。

大船辺から鎌倉にかけては左のようなこの歌の変形もうたわれている。  
一匁の一すけさん、芋屋のおばさん、芋ちょうだい。  
魚ちょうだい。（四匁：しいたけや、五匁：ごぼう屋、六匁：ろうそく屋、七匁：しちりん屋、八匁：はこ屋、九匁：きゅうり屋、十匁：重箱屋）。